

令和2年度
まちづくり活動
アシスト事業報告

「地域新聞みあき」とは

「地域活性化の先にあるモノ」
コロナ禍における地域活動のカタチとは

地域新聞みあき
代表 原田 浩明



およそ170世帯(340人)が暮らす伊予市三秋地区には、地域住民が取材から編集・発行までを手掛ける広報紙があります。それが「地域新聞みあき」であり当団体名であります。平成28年10月に創刊、現在(令和3年5月時点)第13号まで発行されています。紙面はA3判4ページで、行事や防災、史跡など地域に密着した様々な話題を年3回ペースでお伝えしています。きっかけは、20年近く地元を離れていた私がUターンした時、「少子高齢化で行事参加者が減り、お互いの顔が見えにくくなった」と思ったことから。過疎高齢化の進む三秋地区を元気にしようと、現在10名の地元有志が仕事の傍ら活動しており、時に地域活性化を目的としたイベントの運営も行っていきます。

新型コロナに対応した
イベント開催を模索

地域活性化を目的として昨年から始めた「レンコン収穫体験会」を継続しよう



レンコン収穫体験会

と計画していたところに新型コロナの流行で一時期開催が危ぶまれましたが、次のような対策を行うことで、令和2年11月8日、22日の2日間にわたり開催することが出来ました。



レンコン収穫体験会スタッフ集合

① 新型コロナ対策万全に

密を避けるため1回の人数を制限し、参加者全員の検温、マスク、消毒を徹底。2日間感染者を出さずことなく無事終えることが出来ました。

② 積極的にPR活動

まつやま花園日曜市に参加し、イベントをPR。立ち寄った方からお問合せを頂いたことで、一定の宣伝効果を得ることが出来ました。

③ 公式HPを開設

参加申込み方法をネット申込みに一元化。公式HPを立ち上げ、申込みページに誘導し易くしました。これにより電話対応の負担が軽減されました。

④ 若い力が大きくプラスに

継続は力なり

課外活動で三秋地区に來られた愛媛大学の学生さんたちに、イベントスタッフとして協力を依頼。快諾頂いたことで、地元住民との新たな交流が生まれ、活気づきました。

⑤ 参加者の声

参加者からのアンケートの結果、9割以上の方からイベント内容に満足し、次回も参加したいとの感想を頂きました。また、コロナ対策についても概ね評価を頂きました。

コロナ禍での今回のイベント成功は大きな収穫でした。また、これらのイベント等を当新聞で伝えてきたことで、地域住民はもとより、地域外からの評価の声も徐々に増えてきています。今後この活動を継続し、地域の一大イベントに育てていきたいと思えます。



花園日曜市